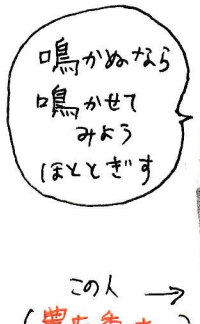
4 全国統一と近世社会の基礎づくり

1582年、織田信長は京都の本能寺で家臣の（明智光秀）に攻められ自害しました。…（本能寺の変）

↓ 敵討ち

同じく家臣の（豊臣秀吉）が山崎の戦い（京都府）で（明智光秀）を倒し、信長の後継者となり、1590年 小田原の（北条）氏を倒して天下統一を果たした。



この人 →（豊臣秀吉）

4 大阪城を本拠地とした。

大阪、京都、伏見に城を築いた。

全国の（金）山、（銀）山を支配下においた。

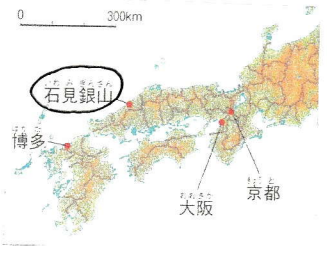
さらに、（関白）の地位について、天皇の伝統的な権威をも利用して政治を行った。

信長は安土に、秀吉は京都の伏見（のちの桃山）に城を築いたので、この時代を（安土桃山）時代といいます。

戦国時代、金山や銀山などの鉱山開発がいちじるしく進みました。

特に（島根）県（石見銀山）は、全国の銀山の中でも特に産出量が多く、戦国大名が取り合いの争いをくり返していました。

（石見銀山）で生産された良質の銀は、東アジアの貿易を通じて大量に世界に流通しました。



現在 世界遺産に登録されています。